

公表

事業所における自己評価結果 (児童発達支援)

事業所名		からふるARMO			公表日	2026年 2月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	基本的には30分毎に教室を入れ替えることで、スペースを適切に確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2		ご利用者様が増えた際、療育や電話対応が重なることで、緊急時の対応体制に課題が生じる可能性があると考えています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0	カードによる視覚的な構造化、部屋配置による空間的構造化を実施しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	法人内の別事業所スタッフと関わる機会として、オンライン会議等を実施し、療育内容の向上や支援の工夫について意見交換を行う場を設けています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	支援計画作成時には、職員にも原案のもととなる素案を作成してもらい、すべての職員で内容を共有・検討しながら計画を作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	お子さまによっては、繰り返しの活動やルーティンが必要な場合があり、その特性に応じた対応を行うこともあります。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	基本は個別療育の強みを生かしながら、お子様のご様子に応じてフレキシブルに小集団での活動を実施しています。そのため、こうした活動も視野に入れた支援計画を作成しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	保護者様を介して取り組んでいる。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	4	0		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	2	公園などで関わる事がまれにある。	保護者の方の中には否定的な意見も多いため慎重な検討が必要。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	0		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	支援計画の説明時には、基本的に「生活に対する意向」欄には、保護者（本人）の言葉をそのまま記載してもらっている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	4		保護者様からのニーズは現状なく、否定的な意見もあるため、慎重に検討する必要がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	ご予約状況を表でお送りする等、保護者の方に対しても視覚的にわかりやすい形でご連絡を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3		保護者様からのニーズは現状あまりなく、否定的な意見もあるため、慎重に検討する必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	体験時の確認、契約後のフェイスシート等を用いて情報を繰り返し確認する機会を設け、アレルギーに関する情報に漏れが生じないよう取り組んでいます。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 からふるARMO

公表日 2026年 2月 10日

利用児童数

25 名

回収数

21 名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	3	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	18	3	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	3	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	4	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	4	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	4	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	4	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	4	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	4	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	4	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2	5	2	12		保護者様の中には否定的な意見もあるため、実施に関しては現状は行っておりません。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	3	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	6	3	12		ご要望に合わせて開催することが可能でございます。詳しくは、玄関に掲載しておりますポスターをご覧ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	6	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	7	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	6	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	3	3	15		保護者様の中には否定的な意見もあるため、実施に関しては現状は行っておりません。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	6	0	9		保護者様のご要望に合わせて随時ご対応させていただきます。 詳しくは玄関に掲示されておりますポスターをご確認ください。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	6	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	3	0	6		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	3	0	6		当事業所では定期的なマニュアル研修等を実施し、玄関にマニュアルを常備しております。保護者様に活動が伝わるよう、積極的な共有に努めさせていただきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	0	0	18		当事業所では定期的な訓練・備蓄品の確認を行っております。保護者様に活動が伝わるよう、積極的な共有に努めさせていただきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	6	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	3	0	12		当事業所では定期的なマニュアル研修等を実施し、玄関にマニュアルを常備しております。保護者様に活動が伝わるよう、積極的な共有に努めさせていただきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	0	0	4		
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	0	0	4		

公表

事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

○事業所名	からふるARMO			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 4日		～	2026年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25 名	(回答者数)	21 名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 4日		～	2026年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4 名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を軸にした支援設計	○1.5時間の個別療育により、 ・導入・集中・切り替え・クールダウン までを一連の流れとして支援できている ○マンツーマンでの取り組みにより、ABA・TEACCH・感覚 統合を手段として柔軟に使い分けている。子どもの状態に合わ せ、机上・遊び・身体活動を組み合わせている。	他児の担当療育士との連携を強化すべく、使用部屋の検討、 交代時間の共有などに取り組んでいる。時折お子様の要求な どにより発生するイレギュラーへの対応を検討する
2	子ども主体・プロセス重視の関わり	○フィードバックで「できた・できない」だけではなく ・取り組む姿勢・工夫・気持ちの動き を重視して伝えている。 ○活動選択や進め方に、子どもの意思を反映している	○子どもの言葉・行動をそのまま残す工夫 ・「～と言っていました」「～と表現していました」を意識 的に記載している。 ・解釈より“事実+温度感”を伝える 上記の内容から、療育の様子が想像できるよう工夫を行う。
3	落ち着いた環境・刺激調整ができること	○刺激に配慮した活動内容、クールダウンに用いることのでき る部屋の完備 ○公園活動やマインドフルネスなど、情緒を整える時間を確保 ○無理に盛り上げず、安心感を優先	○活動内容の検討・種類の充実化 ○屋外活動における活動場所の再検討、充実化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育の価値が伝わりにくい	○一般的な児童発達支援のイメージが「集団活動」「運動」 「イベント中心」に偏っている ○成果が短期間で見えにくく、数値化しづらい ○個別療育の意義(関係性づくり・情緒の安定・自己調整)が 受け入れられにくい	「個別療育で育つ力」を具体例で示す ○集中の持続、切り替えの早さ、自己表現など ○見学・面談時に「ゆっくりと下地を築き上げていくことの 重要性」を更に強調していく ○フィードバックで「現状の活動がどのように集団に作用す るか」を意識して伝える
2	活動内容の意図が見えにくい	○成長が「内面・過程」に現れやすい ○『ただ遊んでいるよう』に見えてしまう	○「見た目」ではなく「変化」に焦点を当てた発信の強調 例：「最初は5分だった集中が15分続いた」など ○保護者向けに『変化の重要性』を言語化し伝える。 →「たったそれだけ」と思われぬように、何をできるようになる ための下地として行ったかを共有する。 ○定期的に「できるようになったこと/変わってきたこと」を言語 化する
3	スタッフ間で支援観のズレが生じやすい	○各スタッフが様々な事業所での経験を持っている ○「正解」を決めすぎない支援方針のため、解釈に幅が出やす い	○「やっていいこと・大事にしたいこと」の共通認識を持つ →技法ではなく「姿勢・考え方」を揃える